

令和2年度第4回 総合計画審議会

日時：令和3年3月2日（火）14：00～15：00

場所：玉城町役場厚生棟1階会議室

次第

1. 挨拶
2. 議題
 - (1) パブリックコメント結果について
 - (2) 答申書（案）について
 - (3) その他

配布資料

事項書

資料1：パブリックコメントに対する対応一覧表

資料2：答申書、第6次玉城町総合計画（最終案）

第6次玉城町総合計画 概要

概要版（案）

議事録

事務局：【資料確認、スケジュールの確認】

会 長：こんにちは。本日は令和第4回審議会ということでよろしく申し上げます。

審議会の後に答申する段取りになっている。ご協力をお願いしたい。

この審議会もコロナの関係で、いつオンラインになるかなと思っていたが、こうしてお会いすることができて4回目を迎えることができた。ワクチンも始まっているが、引き続き感染予防を続けていく必要がある。計画の案にも盛り込んでいるが、コロナと折り合いながら、まちづくりも止めないでいこうということだと思っている。

よろしく申し上げます。

議題1 パブリックコメント結果について

事務局：【資料1 説明】

会 長：質問、コメントをお願いしたい。

事務局：パブリックコメントの意見には、実行レベルでの質問が多かった。総合計画での施策レベルでの反映はしきれないところで回答している。

委 員：回答は対外的に発表するのか。

事務局：HPで公表するが、意見を出した方に直接返答をするということはない。

パブリックコメントには、議員からの意見もある。

会 長：パブリックコメントの意見は29件あって、前回と比べて多いか少ないどちらか。

事務局：前回との比較はできていないが、他の計画のパブリックコメントと比べるとものすごく

多い数字である。

本来であれば、関係機関に赴いて、意見をもらいに行くことが多いが、コロナでできていない。代わりという分けではないが、各種団体にアンケートをさせてもらったので、計画案ができたことをお知らせしてご意見をいただくために、計画案を送らせてもらった。結果として、団体や参加されている個人からも意見をもらっている。前回計画の時は 37 件なので、今回は若干少ない。

委員：意見 9 に対する回答の中で「機構改革の中で」という表現があるが、機構改革があるのか。

事務局)：総合計画は 10 年間、前期計画と位置付けても 5 年間の計画期間がある。来年度機構改革をするわけではないが、計画年度の中では実施することを想定しており、そのような回答をしている。

委員：意見 8 に対する回答は「避難所運営マニュアルをつくる」とかなり具体的に描かれている。他の回答はあまり具体性がない中で、このまま回答しても問題がないのか。

事務局：この事業は、既に下外城田地区で避難所運営マニュアルを先行的に取り組んで、作成している。今後他の地域にも展開していく予定であるため、具体的な内容となっている。

委員：パブリックコメントへの回答案は、既に担当課で吟味しているので、このままでよいと思う。いただいた意見をみると、身近な問題、保健福祉分野の意見が多い。出されている意見の傾向をみると、玉城町の地域性を表していると思う。都市部では、行政と関係性を持つという意識がない。僻地では地域の力がなく、行政への要望になりがちである。その中で、玉城町の意見は、行政とコラボをしたいがきっかけがない、参加したい、という住民が一定いるように見受けられた。住民巻き込んで、民の力を借りてよいまちづくりをすすめてほしい。

委員：意見 27 の毎年の成果の「見える化」の方法はあるのか。

事務局：主要施策の成果を総合計画に紐づけて評価をしているので、HP でみることができるようにする。

委員：回答の中で、HP で公表していること、ここ (URL など) でみることができるということを教えてあげたほうがよい。

事務局：評価とその進捗の公表はやろうとするとどこまででもできるが、事務量が膨大になる。計画進捗の「見える化」について、主要施策の成果を 10 月広報で概略を載せている。それぞれの施策に総合計画のどこが繋がっているのかを示した資料は HP で公表している。

できる限り丁寧に住民の皆さんにはお知らせしたい。

評価は、経済波及効果などまでは出すことが困難なので、どの程度までの評価とするかの内容は検討したい。

事務局：回答書は HP に公表する。意見をいただいた部分の修正等は事務局の責任構成とさせていただく。

議題 2 答申書案について

会長：答申書案は答申する際の付帯内容である。

【資料2 答申書案 読み上げ】

この内容でよろしいか。

委員（全員）：異議なし。

会 長：答申書案の内容で、審議会として町長に答申させていただく。

議題3 その他

事務局：表紙は、キャッチフレーズを入れている。また、六角形の写真は、17個として、SDGsの17のゴールにひっかけている。裏表紙ではGプレースの説明を入れて、PRも兼ねている。本編には、用語解説や委員名簿、策定の経緯などの資料編を追加する。

委員：Gプレースについて、これはそもそも何かと聞かれる。裏表紙に解説があるが、よくわからない。町章が変わったわけではない、このマークは「何なん」と住民の方にはといわれる。ゆるキャラは、親しみを持ってPRする存在としてわかりやすいが、マークは「何なのか」となってしまう。

裏表紙は解説ではなく、「・・・という思いを込めたシンボルマークとして改めて作りました。」といった、わかりやすい内容に変えてはどうか。

県内でも同様の事例があるのか。

事務局：これまでは、各課が計画やそのほかのものを作成するときに、町章を使うことはなく、それぞれが新しいロゴやマークを作って使っていた。統一した広報ができないかということで作らせてもらった。一つ目のねらいとしては、「これは何だろう」と思って、記憶に残ってもらうのもPRの一つと考えている。そのうえで、町民の皆さんに浸透させるために、要所要所で直接説明をしてもらえばよいと考えている。県内での事例はないが、先行事例としては、北海道東川町のマークがある。マークを作ってから、浸透するまでに10年かかったといわれている。こつこつと情報発信をしていかなければいけないと考えている。

会 長：今後使い続けながら、丁寧に質問に対応してもらって浸透させるということでした。

ありがとうございました。他のご意見がないようでしたら、事務局にお返しします。

事務局：ありがとうございました。引き続き、町三役との意見交換会に移りますので、よろしくお願い致します。

町三役（町長、副町長、教育長）意見交換会

日時：令和3年3月2日（火）15：00～15：30

場所：玉城町役場厚生棟1階会議室

事務局：第6次総合計画審議会令和2年度の第4回目を無事終了させていただいた。答申の前に委員の皆さまと町三役との意見交換会を実施したい。

町長：2年間にわたって委員の皆様にはお世話になり、ありがとうございました。玉城町の町政推進、まちづくりの一番重要な計画である総合計画をまとめていただき、感謝を申し上げます。今後は、計画に基づき、一つひとつの施策を着実に進めさせていただく。第6次総合計画でも将来像はそのままとして「だれもが安心して、元気に暮らせるまちふるさと玉城」を進めていかなければならないが、コロナによって、イベント開催ができなくなって、町民のみなさまに発表する機会がなくなり、共生社会や支えあいや助け合いの行動がとれない事態になっている。今後もコロナ対策に取り組んで、玉城町の良さであるコミュニティ、つながりを取り戻していかなければいけないと思っている。計画のキャッチフレーズも「ずっと、もっと、笑顔あふれるまちづくりプラン」となり、目標年度の2030年、さらに10年先、20年先を見据えて様々なことに取り組んでいく必要がある。第6次総合計画では国連サミットのSDGsをどのように実現していくかを、項目に入れており、地域ぐるみで住民と一緒に取り組んでいかなければいけないと考えている。計画が絵に描いた餅ではいけない。一つひとつ実行、実現するために努力をしていきたい。大変お世話になりました。お礼を申し上げます。

事務局：委員の皆さまには今後の町政に期待すること等、ご意見をいただきたい。

委員：2年間ありがとうございました。これまで数十年玉城町で暮らしているが、町のことをしっかりと勉強させていただくことはなかった。他の地域と比べてみる事ができた。町民のニーズは交通のこと、子育てが優れているとの評価もある。次世代にふるさとの良さを伝えていくなかで、町民が町政に参加をしたいという気持ちがあると感じている。これが玉城町のポテンシャルだと思う。これからの施策の推進には、地域との一体感、コミュニティがキー、重要どころになってくる。玉城も都市化して、住民同士の関係性が薄れるかもしれないが、地域づくりにどのように取り込んでいくかが課題である。住民等様々な主体とのパートナーシップづくりに取り組んでいただきたい。

委員：商工会から参加し、ありがたく思っている。この会議では商工会からの視点で、計画を見させてもらった。地元の事業者はコロナで疲弊している。補填をしていただきありがとうございます。創業塾等、産業振興課と強いつながりを持って行っている。総合計画のなかで引き続き協力できたらと思っている。玉城町に住みたいという人をもっと増やしてもらえるとよい。2年間ありがとうございました。

委員：審議会の委員の中で一番年寄りになった。日ごろから事務局、町長とフランクに話をさせてもらっている。基本的には、町民がつくる総合計画が生きてくると思う。スケジュール的なこともあって、我々が住民代表という形をとらせて、計画づくりをさせてもらっている。他市町でも総合計画を作っているが、内容が金太郎飴のようだといわれる。今回担当にも苦労

してもらって、玉城町の計画を作った。本来であれば、町民やグループで協議会を作ってもらって、職員も事務局だけでなく、他部署も参画して、職員をファシリテーターになって住民の意見を出してもらって、住民が作り上げた計画が理想的である。どこかの誰かが作った計画ではいけない。自分たちの暮らしは自分たちで守っていくという意識のための地ならしが必要である。中央ではSDGs、関係人口など言われるが、魂の入らないものを掲げて、本当に住民のためにはならないと思う。この審議会には委員がいろいろな立場で参画しており、私自身は勉強させてもらい成長させていただいた。ありがとうございました。

委員：総合計画以前から他の計画作りにも参加させてもらっている。町民は今は町に満足していると感じている。他市町からの転入者があり、人口減少が少ない、子育てしやすい。しかし、これから10年考えると、他市町も施策を打ってきている。コロナで生活様式も変わる、社会情勢も変わる。状況に応じて住民の声を聴いて、町政を進めてもらいたい。町民は玉城町が好きだと感じる。祭りでも参加をしてもらっている。元々玉城を住んでいない人も参加している。ウィズコロナの中で行政も運営していけばいいと思っている。ありがとうございました。

委員：町民はエネルギーにあふれている。熱意や意思を持っている。行政と同じ方向を向いて進めていけるかは課題がある。総合計画が住民と行政が同じ方向を向く指針になれば、よい。歩調を合わせていくことができれば最高である。

会長：2年間お疲れさまでした。総合計画の答申をさせていただく。総合計画はSDGsを取り入れている。SDGsは国連の計画でありながら日常生活に浸透していると感じる。それは、わかりやすく、カラフルなアイコン、引用しやすい内容だからだと思う。この総合計画も計画書が各職員のデスクにあって、計画を確認しながら、事業や施策を現場を進めていこうというように、普段使いの計画になっていけばよいと思う。総合計画をもとに町政にまい進してもらえればよい。

委員：審議会のような場に初めて参加した。これまでは外の世界ばかりを見て、真剣に自分の町に向き合ってきたことはなかった。自分自身が変わるタイミングであり、子どもが生まれ、町がよくなってもらわないと親として困る。違う目線から物事を見るようになった。友人や同世代をみると、結婚して、子供ができて、家を建てて、引っ越しをする世代である。結婚、家づくりの時に玉城町を選んでもらうことが大事である。「子育ては玉城町」といわれている。家を建てれば永住するきっかけになる。伸ばしていつてもらいたい。改善したほうが良いというコメントしかできないが、町が良くなるようにできる限りの協力をしていきたい。

委員：途中からの参加だが、勉強になった。町民自身が目標をもって、元気に暮らしていければと思っている。

町長：町が第5次と大きく変わったのは、昭和30年から人口増だったが、5年前から1年に70人ずつ減少している。危機的状況は全自治区のうち3地区には子どもがいない。高齢化率が45%以上の地域もある。330戸の空き家がある。これは良い方向は難しい。厳しい方向になる。危機的状況のなかで、住み続けてもらえる町になることが必要である。玉城町はコンパクトで、スクールバスが走らなくてよい状況にある。10年先まで4つの小学校（複式ではない）存続できる見込みときいている。小学校が残る、コミュニティがあること、優良農地

があって、働く場があってというポテンシャルを活かしたまちづくりを進めていくことが課題である。世界的なコロナ危機は課題である。克服をしていかなければいけない。在所の寄り合いは書面、桜祭りもやめになっている。地域ではリモートというわけにはいかない。高齢者の健康面、家庭内での心配がある。早めに手を打って解決することが必要である。町の持続発展のための取り組みをしていかないといけない。人口増加は難しいが、住み心地が良いまちを存続させていくこと、住民に参画してもらうことをお願いする必要がある。県外から城へ来る人が増えている。蛭田の水辺の学校にキャンプに来る人も多い。住宅建築も100戸とある。役場内で対策を講じることが喫近の課題である。ご指導をお願いしたい。

副町長：委員の皆様ありがとうございました。職員が基本計画をバイブルとして意識する、職員が地域のリーダー、ファシリテーターとして地域に向かっていきたいと考えている。逐次チェックを入れながら進めていきたい。

教育長：明和町も玉城町と同様に、子育てと教育に力を入れている。住宅が建っている。3小学校1中学校でやっていくと聞いている。総合計画には、教育委員会でも一つひとつ実現していこうと意気込みで掲載させてもらっている。玉城町が目指していることを職員、地域住民が理解しながら、進められるとよい。子どもの学校・学習のことで、地域の人に力も借りながら、進んでいかなければいけない時代になってきている。ご協力をお願いしたい。

事務局：これで意見交換会を終了させていただき、答申式を開催します。ありがとうございました。